

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300262		
法人名	株式会社ニーノコーポレーション		
事業所名	グループホームはなえくぼ扶桑		
所在地	愛知県 丹羽郡 扶桑町 柏森 辻田 398		
自己評価作成日	令和元年 9月 7日	評価結果市町村受理日	令和元年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2375300262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個々の能力やニーズを発見し、それに沿った援助を行うことが出来るよう努力を続けている。
季節の行事を大切にし、利用者様、ご家族、地域の方々へ施設の理念を理解して頂ける様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定年に伴う管理者の交代があったが、新管理者はこれまで主任として勤め、利用者とは馴染みの関係であり、利用者・家族・職員は全幅の信頼を寄せている。新管理者は理念の一つ「わがままが言える関係」を継続して取り組んでおり、「人生の終盤を一人ひとりに合わせた人生が全うできる支援」を職員と共に追及し、全職員のレベルアップを目標に掲げている。
日々積極的に利用者に関わり、親しみの持てる環境作りは、利用者・家族・職員の風通しの良い環境の賜物である。今年度も1名の看取りを行ったが、淋しくないように居室の戸を開け、職員はもとより他の利用者が見舞いに訪れるなど、当たり前の生活を送り、家族も泊まり込んで終末期を過ごした。看取りを利用者・家族・職員が自然に受け止められる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主にミーティングなどで職員と話し合い共有できるように心掛けている。	法人理念、ホーム理念5項目を掲げている。利用者一人ひとりの「できること」「できないこと」を確認し、安全で自由な暮らしを支えるため、「個別ケアの充実」に日々取り組み、会議で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩や、喫茶店に出掛けるなどして顔見知りの方であったり、夏祭を開催し、地域の皆さんとふれあう機会を作るようにしている。	地域行事や日課の散歩で地域住民と積極的に挨拶を交わし、隣の保育園行事に出掛けている。雪の日にホームの雪かきをする近隣住民もいる。ホームの夏祭りには地域住民の参加があり、双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時や広報誌などで、事例や認知症介護のコツなどを伝える事が出来ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には写真などを使用し、日々の取り組みを分かり易く伝える事が出来る様に心掛け、会議参加者の皆様からご意見を伺う事が出来る環境作りを行っている。	民生委員4名・町役場・地域包括支援センター・老人会・女性の会等、多彩なメンバーの参加があり、年6回開催している。写真を掲示して利用者の日々の生活や取り組みを伝え、出席者から助言を得ている。	当事者である利用者や家族の参加を、継続して呼び掛けてほしい。更に多くの意見を引き出し、サービスの質の向上に結び付けられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町のグループホーム研修に参加している。	運営推進会議には町・福祉課の職員や地域包括支援センター職員の参加がある。インフルエンザ流行時の対応など、意見を取り入れている。生活保護受給者の関係で、保護課とも密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで「ヒヤリハット・事故報告書」の内容を検討し、身体拘束に頼らない介護方法を探っている。また、施設内研修も行き、施設の方針をしっかりと職員に伝えている。	「身体拘束をしない」を家族に伝え、玄関の施錠はない。外に出る時は、止めるのではなく付いて歩き、年2回の勉強会や毎月の会議で話し合い、職員の身体拘束に対する意識は高い。スピーチロックについては職員同士が注意しあい、意識向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様のアザや怪我について、その原因を1つ1つ確認していくこと。また、必要などときには言葉選びについても適切であるかどうかの確認をすぐに行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については専門的に学ぶ機会が少ないため、今後学ぶ機会を持ちたい。活用について取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を伺い、職員間で共有できるようにしている。必要な場合は運営に報告し検討を行っている。	家族会や来所時には、職員だれもが近況を伝えることができる。意見・要望を聞くように努め、出た意見はすぐ実行するように取り組んでいる。SNSを使用してホームの取り組みを公表しており、家族から好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、運営との面接を行っている。	職員からは、「管理者とは普段から言い易い関係であり、風通しがよい」との言葉があり、定着率も良い。色々なシフト時間があり、職員の希望時間で働くことができる体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については運営との話し合いが行われる。職員の能力に応じて仕事を任せるなどして、責任感や、やりがい生まれるように努めている。勤務時間を多様化することで残業が出ないような工夫を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも参加出来るように心掛けている。また、ステップアップ出来る機会を作れる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム研修に参加したり、ケアマネの研修会に参加するなどして意見交換が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にご家族からお話を伺うことに加え、早く信頼を獲得し、話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接・契約時にしっかりお話を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人からお話を伺うことに加え、職員が様子観察をしっかり行うことで必要なサービスを見つけ出していく取り組みを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに「出来ること」を見つけ、お手伝いをして頂く。そして必ず感謝の気持ちをつたえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に写真を送っている。ご家族の都合に合わせて、いつでも面会頂ける環境作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の訪問や電話などがよく見られる。また、近隣の喫茶店などで出会う事も多く、そんな時にはゆっくり時間を持って頂けるように努める。	友人が継続して訪ねてきている。家族の協力で自宅に帰る利用者や家族と外食を楽しむ利用者、携帯電話で近況を伝える利用者等がいる。安寿さんだった利用者が写経を継続するなど、習慣も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報を共有し、リビングでの席や外出行事のグループを決められるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談や支援に努める様心掛けてはいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意向を職員間で共有できるように心掛けている。原則的に、ご本人の希望を優先出来るよう検討を行っている。	手を握ったり、傍に寄り添ったりして、利用者の表情・仕草・反応から思いを汲み取るように努めている。聞き取った内容は管理者に伝え、職員で共有して後日叶えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にお話を伺い、職員が共有できるようにしている。それに合わせたサービスが提供できるようにミーティングなどで話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記録するなどして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり、ご本人や家族の希望等を伺うようにしている。それをミーティングで報告し実践できる様にしている。	家族や利用者の意向を聞き取り、それらを反映させた介護計画を作成している。短期目標の期間に合わせて半年ごとにモニタリングを行い、長期目標を1年で見直している。会議で、職員間の共有を図っている。	思い(個別ケア)を反映した介護計画の作成を望む。利用者・家族・職員が共に達成感が得られる、具体的な介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日必ず介護記録を残している。それを元に毎月の介護計画や、ケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室のレイアウトなどは希望に沿って行っている。その他のニーズについてはその都度話し合いを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店に訪問して頂きサービスを提供して頂いている。また、お花や、演芸などのボランティアさんの受け入れも積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療、訪問看護の訪問を定期的に行っている。医療関係者と施設職員とで連携を取り適切な医療が適切に受けられるようにしている。	全員が協力医をかかりつけ医として往診を受けている。ホームでレントゲン・エコー・採血を行い、迅速な対応ができる体制がある。訪問看護による健康管理もある。従来の専門医受診は、家族対応を原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることなどがあればすぐに報告相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を発行したり、病院の相談員との情報交換、必要な場合はリハビリの状況確認に出掛けたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況を確認しながら早い段階で家族と話し合い、終末期の希望を伺う。それに沿って介護の方針を職員間で共有できるようにしている。	全員がホームでの看取りを希望している。医療的ケアがない場合看取りを行い、今年度1名の事例がある。医師・看護師・家族・ホームが、その都度話し合っ方針を決めている。家族が泊まって看取ることができ、終末期にはターミナル研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修でその対応を確認する機会を作っている。また、消防の協力も得て緊急時の対応についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害や地震に対する避難訓練を行っている。備蓄品の管理も責任者を中心に行っている。	年2回火災訓練(夜間想定)を行い、1回は消防署立ち合いの下通報・避難訓練を行い、近隣住民の見学もある。1週間分の備蓄があり、ランタンや携帯のソーラー充電器を用意し停電に備えている。	近隣住民から「いざという時に手伝う」との言葉があるが、避難時の見守りなどの具体的な協力内容を話し合い、いざという時の体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内で研修を行っている。必要な時にはその都度確認を行う。	声掛けの基本は「さん」付けとし、丁寧な言葉かけを心掛けている。更衣時はカーテンを閉め、排泄や入浴時にはタオルを掛けるなど、羞恥心にも配慮している。個人情報の取り扱いにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に行う何気ない会話の中から希望等をピックアップしたり、日中の過ごし方などを必要以上に決めてしまわないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などでも、可能な限り適切なタイミングで提供していきたいと考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、髪染めを行ったり、好きなヘアトニックを提供するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来ることに合わせ、野菜の皮むき、包丁での作業、炒め物などをお手伝い頂いている。	生協の配送食材を利用し、足りない物は食材係が利用者と買い出しをしている。献立は利用者に聞きながら決め、利用者の希望や要望により皮を剥く・切る・盛り付けなど、それぞれが役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事・水分摂取量を毎日記録している。また、好きな飲み物を準備し、水分補給が出来るように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行っている。必要な方には薬用歯磨きなども用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙オムツ・パットの使用方法についても個々に検討している。自室にポータブルトイレの設置などは避け、誘導出来るようにしている。	利用者の自立度が高く、トイレでの排泄を基本としている。定時誘導を行ったり、利用者一人ひとりに合わせて様子を見ながら言葉を掛けて誘導したりしている。立ち上がりに気を付け、2人対応のトイレ誘導もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事を把握する以外に毎日「廊下歩き運動」を行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺い入浴して頂く様にしている。基本的な時間は決まっているが、必要な場合はそれ意外にも行う様にしている。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節に合わせた入浴も行っている。	毎日の入浴機会があり、毎日入る風呂好きの利用者もいる。拒否する利用者には無理強いせず、理由を察して人を代えたり、清拭やシャワー浴などで柔軟に対応している。柚子湯など、季節を楽しむ工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息出来るように、各居室の空調管理に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月のミーティングで確認している。また、変更があった場合はその都度掲示し内容を理解・共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを把握し、それにあった軽作業などを願っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合った外出先を考え、外出行事を行っている。日常的な散歩については気候などを考慮し行っている。	日常的には、近隣散歩や喫茶店に出掛けている。玄関先にある椅子に座り、花を見ながらの外気浴もある。年2回の企画外出は、法人の車を使用して犬山城などに全員で出掛けている。暑い時には、夜に散歩を行うなどの配慮もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は現金を事務所で管理している。外出時などは個々の財布を持参し、使っている様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方もいらっしゃる。手紙や葉書はご本人にそのままお渡しするか、代読するかしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは清潔であることに心掛けている。居室の空調温度にも気を配り、希望に添えるよう努力している。壁紙をレクリエーションとして作成し、掲示している。	静かな環境で騒音や振動はない。食堂兼リビングは台所からの匂いや音を感じられ、五感に働きかけるような造りである。日中を多くの利用者がリビングで過ごしており、清潔で適温の空間である。食後のひと時、洗濯物を畳む利用者に出会った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室のレイアウトに関してはご家族やご本人にお任せしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、今まで使っていた物。あるいは小物などを配置し、快適に過ごして頂ける様に工夫している。	箏箏・机・ぬいぐるみなどを持ち込み、山好きな利用者は山の雑誌を持ち込んでいる。安寿さんだった利用者は、絨毯を敷いて座って生活している。それぞれに、居心地よい雰囲気のある清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の取っ手を変更したり、手摺を増やすなどして自立を促している。「出来ること」「わかること」を職員が把握する事の大切さを知り、安全に自立を支援できるように話し合いを行っている。		